

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2022年

1月

197号

◇ 信仰の視野を広げよう

法の施しで徳の器を大きくする!



美
日和になりぬ

雪の上

玉凡か



宗教法人 真生会

信仰の視野を広げよう

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）



我此土安穩
三人為充満

【仏の国土は安穩で天上界も
人間界もいつも喜びに満ちている】

今年一年が仏の教えに守られ
世界中が安らかく穏やかで
人々が助け合う善なる行いによつて
平和な日常が過ごせますように

総本山真生寺

改装工事完成御礼

十一月三日から始まった総本山真生寺の第二期大改装工事が、コロナ禍の資材不足の中、工事関係業者の尽力により十二月十八日に無事完了しました。

本堂は青畳のイグサの香りが漂い、床暖房のほのかな温もりが伝わります。光徳会館の法座ルームの空調も整い、本堂前の参拝駐車場も完全舗装され、すがすがしく新年を迎えることができました。

会員皆様の寄進供養に心より御礼申し上げます。



本堂廊下タイルカーペット



本堂畳の表替え



光徳会館の空調設備



駐車場アスファルト舗装

開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁



人の一生は大ドラマを各自が演じているので、殿様役、貧乏人役、女中役、病人役などの使命を受けるのです。たとえつまらぬ貧乏人役でも心から引き受け、懸命にやり切った人は千両役者であり、観客（大自然、仏様）から拍手喝采ほくしゅかつさいのご褒美ほうびがもらえるのです。せっかく格好のよい殿様役を与えられても喜びを知らず、不平不満の心で演じた人は、大根役者として大衆から見放される人もあります。運命とは自分の心の運び次第で善にも悪にもなるのであって、他に委ゆだねるものではありません。

この世の中は、「心ひとつの置き所、楽も苦となり苦も楽となる」と知れば、今からでも遅くはない、尊い仏さまのご法の鏡に己を映し、教えの物差しに沿って生活すれば誰でも幸福を勝ち取ることができるのです。

（1982年、真実に生きるひかり37号より）

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか ちゆうねい



新年あけましておめでとうございます。

今年も「ひかり」をご愛読頂き、誰でも幸せになれる法華経観を磨き、明るく充実した一年をお過ごしください。

今年の信仰目標は

信仰の視野を広げよう！

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

です。

コロナウイルス感染症が始まって二年余りが過ぎますが、いっこうに終息しません。経済活動やあらゆることがグローバル化した世界では、どれだけ水際対策をしても、日本一国だけが安全安心で大丈夫という訳にはいきません。

富める国が貧しい国にワクチンの供与をしたり、経済援助をして他の国も安

心安安全にならない限り終息はしません。

日本は島国ですからあまり切実に感じませんが、ヨーロッパや中東のように近隣の国が戦争をしていたり貧しい国があれば、難民が押し寄せ社会不安になります。日本国内においても同様で、自分や家族だけが大丈夫でも、どこかで誰かが発病している間は安心できません。みんなのために一人ひとりが予防のための手洗い、マスク、三密を避ける、ワクチン接種などの協力が不可欠です。

◇信仰の視野を広げよう

コロナウイルスも生き延びるために変異を続けていますが、私たち人間も旧態依然たる固定した考え方では今の幸福も長続きしません。自然界で生き延びてきた生物は、強い者が生き残ったのではなく、自分を環境の変化に合わせて柔軟に変化させたものだけが生き残ったのだと言われています。

宗教の「宗」は物事の大本、根源という意味であり、つまり時代が変わっても変わることのない「永遠不変の真理」のことです。「教」は真理の実践方法であり、これは時代や状況、自分の成長度合いにより変化していきます。

つまりは信仰の視野を広げ、時代や生活環境に即して日に新しく発想を進化

発展させることが不可欠です。折角の信仰も停滞し時代遅れになってしまつては、若者からの魅力も無くなり、法の後継者も育ちません。

入信当時に教えてもらった実践方法や、十年前二十年前に教えてもらった親孝行や徳積みの方法を固く守っているだけでは、気が付いた時には「信仰の浦島太郎」になってしまいます。

誰でも最初は自分が救われたい、自分の家庭が幸せになりたいと願って信仰を求めますが、法華経は自他共に救われ、幸せになるための「自利利他」の教えです。自分だけや我が家だけが幸せならいいという視野の狭い信仰から卒業し、困る人悩める人がいれば、勇気をもって積極的に手を差し伸べ、家庭不和でもめている家庭には「一緒に教えを聞きませんか」と声を掛け、世の中全体が幸せになってこそ本当の安心立命があるのです。

◇世の中は病んでいる

十二月十七日、大阪・北新地のビルの心療内科クリニックで二十五人が死亡した悲惨な無差別放火殺人事件がありました。令和元年の京都アニメーション放火殺人事件を模倣した罪のない無関係の人を道連れにする理不尽な放火事件

が後を絶ちません。犯人は皆、家庭や人間関係が崩壊し、心が病んでいるのです。十二月十八日、女優の神田沙也加さんが宿泊中のホテルで転落死のニュースに衝撃が走りました。詳しくは捜査中ですが自殺と思われます。女優として歌手として大活躍され、これからという絶頂期に何故なのでしょうか？

また、昨年の七月十八日、俳優として大活躍し、順風満帆に見えた三浦春馬さんの突然の自殺に愕然がくぜんとしました。九月二十七日には女優の竹内結子さんが、家族との夕食後、二階の自室で自殺されました。育児と女優業の狭間はざまで悩んでいたとも言われています。その他にもプロレスラーの木村花さん、女優の芦名星さん、ベテラン俳優の藤木孝さんなど、一見華やかな世界で活躍中の芸能人が連鎖のように自殺されました。コロナ禍で一人暮らしの若い女性の自殺も急増していると言われています。

共通して言えることは、みな孤独で心が病んでいるのです。悩みや苦しみで行き詰った時に一人で抱え込み、誰も相談できる人がいなかったのでしょうか。人間は孤独では生きられません。ほとんどが核家族となり身近に相談する親がない、夫婦共働きで身心共に疲れ、話し合う余裕がなくなり、癒いやされないま

まストレスが溜まっているのです。

◇信仰の宝は不断の友

お釈迦さまは善き法の友は信仰のすべてであり、師である自分自身も法の善き友であると言われました。信仰は、自分のことが決められない弱い者のすることだと錯覚している人がありますが、それは間違いです。信仰が信じられない人、良き師に巡り合えない人、師匠取りの悪い人は親不孝者や親子縁の悪い人が多いのです。相談できる師匠があること、励まし合う法友があることが信仰の宝でありすべてです。

師匠のない仏教はありません。お釈迦さま以来、師から弟子へ、その弟子が師となり、また次の弟子へと二千五百年間途切れることなく伝わったからこそ仏教があるのです。最近では師匠のない書物仏教、活字だけで学ぶ人が増えていますが、独学だけでは理屈はわかってても人生を大きく転換させる力はありません。師匠に対面で直接相談をし、説法を受けてこそ師力仏力を得ることができのです。コロナ禍でリモートが便利になりましたが、やはりリアルに勝る力はありません。一回でも多く真生寺や教会や在家法座に足を運びましょう。

◇法の施しで徳の器を大きくする

人生の幸せは詰まるところ徳の器の大きさに決まります。財も地位も学歴も家も子供も、徳の器が小さかったら、みなこぼれ出てしまいます。器の分しか残らないのです。

では、どうしたら徳の器を大きく出来るのか？

それは施しの徳を積むことです。「自利利他」といって「自分の幸福のために努力することと、他の人の幸福のために尽くすこと」です。

ソニーの創始者、井深大や盛田昭夫は、小さな町工場から創業する時、ただ儲けること、会社が大きくなることを願ったのではなく「自分たちの持てる技術を世の中に役立てていきたい。世界の人を幸せにしたい」と利他の精神があったからこそ世界のソニーとなったのです。

施しには、財の施しと身の施しと法の施しがありますが、法華経の随喜功德品に「法に誘う功德、法を伝える功德は、財や身の施しの千倍、万倍、百千万億倍という計り知れない功德がある」と説かれています。縁ある人に教えを伝え徳の器を大きくしましょう。

釈尊物語

⑰

◇◆いざ遊行せよ、

◇多くの人々の幸福のために◆◇

釈尊は六年間にわたり、死と隣り合わせの過酷かこくな修行を続けられましたが、難行苦行では真の悟りは得られないと修行の山を下り、尼連禪河にれんぜんがの畔ほとりで冥想めいそうのうち
に悟りを開かれ、悟り得た真理を人々の幸せのために説こうと一大決心をされたのです。

そして、修行者が集う鹿野苑ろくやおんに於いて、かつて難行苦行を共にした五人の比丘びくに真理を説き、悟りを開かしめ、ここに仏教教団が誕生したのです。

しばらくの間、釈尊は悟りを得た五人の弟子たちと毎日マンゴーの樹陰こかげで真理を噛み締め、法の語らいを楽しんでおられました。ある時五人の比丘たちを呼び集め、語りかけられました。

「比丘たちよ、私は人天の世界のすべての係蹄わなから自由になった。汝らもまた、人天の世界のすべての係蹄わなから自由になった。

比丘たちよ、いざ遊行せよ。多くの人々の利益と幸福のために。世間を憐れみ、人天の利益と幸福と安樂のために。

一つの道を二人してゆくな。比丘たちよ、初めも善く、中ほども善く、終わりも善く、理路と表現とを兼ね備えた法を説け。また、完全にして清浄な実践を説

け。人々の中には、汚れ少ない者もあるが、法を聞くことを得なかつたならば墮ちてゆくだろう。聞けば法を悟る者となるろう。比丘たちよ、私も法を説くために旅に出よう」と宣言され、^{よむい}齡八十歳になられるまでインド中をくまなく布教伝道されたのです。

「人天の世界」とは世界のすべての領域であり、「さとる」ということは、心が自由になることです。遊行(布教伝道)と信仰の目的は、人々の利益と幸福のため、安楽な世界を作るためなのです。

釈尊が生涯にわたり布教伝道して下さったお陰で、現在私たちも尊い仏さまの教え真理を学べるのです。

開祖さまも「生涯布教師、死ぬまで学

び」と申され、平成二十年二月二十七日未明に入寂されるその日まで、ご信者と会われ法を説き続けられました。釈尊と開祖さまの弟子信者である私たちも、師に習い師の歩まれた布教伝道の道を歩み、縁ある人々と世界の平和と安全のために教えを伝え、仏恩師恩にご恩返し出来る信者になりました。

釈尊が意を決して五人の友に教えを伝えて下さったからこそ、開祖さまがすべてを投げ打ち、ゼロから真生会を立ち上げて下さったからこそ、いま私たちが教えを学び、次々にやって来る苦や悩みを乗り越えることができるのです。

新しい年を迎え、私たちも、いざ遊行に立ち上がりましょう！

今月の運勢（2月）

（2022年2月4日～2022年3月4日）

一 白水星

運氣は最高潮を迎えているが、気負い過ぎず心を穏やかにし、欲を抑えて清らかに保つこと。陰日向なく、誰にも平等で暖かく接すれば運氣は上がる。行動の一貫性を保ち最後まで気を抜かない。

二 黒土星

じっくり構えて動かないこと。今は行動するよりも今年一年を乗り切るためのエネルギーを充電しよう。全体の状況をよく見渡して、今後の計画をしっかりと立てること。

三 碧木星

スピード感を持って目

的を完成させ結果を出す時。大きな力の後押しを受けて物ごとが強い力で動きます。信頼するトップに積極的に

助言を求めれば、より良い結果が得られる。

四 緑木星

収穫の時を迎えている。心にわだかまりなく何事にも誠意を持って接すれば、信頼できる仲間と楽しい時間が過ごせる。心中に誠があれば、大いに前進して案ずることはない。

五 黄土星

壁にぶつかって変化の時を迎えている。一旦立ち止まり、今までの流れを止めないように

継続すること。強行突破するのではなく、迂回する方法を考えよう。家族の協力が大切。

六 白金星

事業は人なり。何事も事を成すには人の力が大きい。但し、人を選ぶにあたって私情や偏見を持たず、公平無私に行うこと。同じ志を持った仲間と協力すれば、大きな冒険をしても願いがとは通る。

七 赤金星

心に引つかかっていたものや困難な事が悦びによつて解消し、悩み事から解放される。先祖供養の功徳によつて崩れそうな結束が守ら

れ、離散を防ぐことができる。

八 白土星

時運に逆らわず、積極的に動かない方がよい。ひたすら謙虚にコツコツと地道な努力を続けること。謙虚さを失うと突然困難にぶつかり、努力が無になるので注意すること。

九 紫火星

高運期を迎えているが、獅子身中の虫や思わぬ障害は断固取り除くべし。但し、曖昧ではなく、不当な理由を明らかにし、慎重に行うこと。電光石火のような素早さと断固とした決意が必要である。

「まごころ誌代」御礼

林田早紀子	出田 溪	土川廣美	早野桂子	澤 君美
樋口容子	小林佑実子	横山知津子	原身予子	澤 芳子
樋口恵美子	某女	半澤照子	豊田直正	加納優子
長尾かれん	村上視佑記	安田初子	豊田真悠子	加納悠貴
三村南央斗	永田雅子	伊東 晃	宮田雄貴	加納宏樹
清崎聖良	大下裕子	佐藤百々枝	河合健司	加納快志斗
細谷早予子	坂本育身	佐藤光洋	河合愛実	深田伊佐夫
今園達也	堀田純子	山本季美衣	河合詩遠	滝本光夫
松下若葉	平口富子	田中佑季子	河合里紗	京川春男
小村友子	谷口祐晟	田中啓予	河合央真	東森敦己
坪井佑介	谷口祐子	田中宏明	多田佳央	鈴木正巳
滝山恵依子	笹原トミ子	亀井善広	堀部恭利	松本裕樹
三村千佳	笹原正子	亀井由実子	堀部祐美衣	松本真由美
小俣丈子	正木みつ子	亀井善二	多田正幸	四日市某
奥田佳代	赤阪 史	高橋身衣	多田道子	岸本周夫
宮島りえ	落合好子	早野起世	平工初子	岸本昌子
荒木敬依子	土川順寛	足立和美	加藤圭子	福元正子
今井純司	土川恭代	足立恵衣子	松尾定洋	平田雄治
今井龍廣	土川康二	足立珠紀	水田祐記子	高橋けさ江

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもって感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

宇宙の約束には無駄がなく
必要な物だけを
ちゃんといつも創つくっている
花がそこに咲くことは
それが大切だという証あかし
私がここに在ることは
それが必要だという証
自分の命を大切に
今を直ひた向むきに生きよう
名もない花が咲くように

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。